

- 1 審議会名 令和6年度 第1回安曇野市こども計画検討会議
- 2 日 時 令和6年7月26日(金) 午後3時30分から午後5時まで
- 3 会 場 豊科交流学習センター きぼう 多目的交流ホール
- 4 出席者 宮澤委員、大澤委員、森岡委員、平沢委員、酒井委員、中島委員、牟禮委員、大野委員、草間委員、横山委員
- 5 欠席者 無
- 6 市側出席者 橋渡教育長、山口教育指導室長、上條学校教育課長、高橋教育総務係長、山浦教育担当係長、草間健康支援担当係長、橋詰健康推進担当係長、佐々木こども園幼稚園課長、山越子ども家庭支援課長、高橋子ども家庭支援課副参事、赤羽子ども家庭支援課長補佐、古畑子ども家庭支援課長補佐、宮島子ども子育て政策係主査、林子子ども子育て政策係主査
- 7 市側欠席者
- 8 公開・非公開の別 公開
- 9 傍聴人 0人 記者 0人
- 10 会議概要作成年月日 令和6年7月29日

協 議 事 項 等

**I 会議の概要**

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 役員選出
- 5 議事事項
  - (1) こども計画の策定について
  - (2) こども計画に係るアンケート調査について
  - (3) こども計画へ子ども・子育て支援事業計画を反映させることについて
  - (4) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

**II 協議の概要**

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 役員選出  
事務局案により、会長を平沢委員、中島委員を副会長に中島委員を選出。
- 5 議事事項
  - (1) こども計画の策定について
  - (2) こども計画に係るアンケート調査について  
委託事業者の特定非営利活動法人 SCOP より、こども計画の概要、各計画の位置づけ、実施アンケート等について説明。

【質疑・意見】

(委員)

アンケート調査について、設問に（居住）地区を入れなかった理由は何か。

(SCOP)

子どもと家庭の生活状況調査については、調査対象を収入状況で区切っているため、地域差を見る必要はないと判断した。若者の意識と生活に関する調査については、回答の負担が大きいと回答率が下がることを勘案し、設問を絞るなかで優先順位が低かった。

(委員)

子どもと家庭の生活状況調査について、婚姻関係について聞いているが、婚姻関係にはあるが別居しているというケースがあると想定されるがその設問がないのではないか。

(SCOP)

今回は、国や県の調査項目を参照しながらアンケートを作成したが、そちらにその選択肢がなかった。本設問ではひとり親家庭の抽出を目的とした。確かに婚姻関係にありながら別居している世帯はひとり親であり、今回は分析が難しい。

(3) こども計画へ子ども・子育て支援事業計画を反映させることについて

委託事業者の特定非営利活動法人 SCOP より、こども計画へ子ども・子育て支援事業計画を反映させること、こども計画の構成案について説明。

【質疑・意見】

(委員)

こども計画と子ども・子育て支援事業計画は、形としては2冊になるのか。

(事務局)

基本的にはそれぞれの会議で検討し、2冊とすることを考えているが、成果物としては1冊になる可能性もある。現在のところは未定である。

(委員)

施策の羅列にならないようにしてほしい。つながりがわかるように施策をまとめてほしい。

(委員)

こども計画にすることで対象年齢が広がるが、庁内の体制について確認したい。途切れが生じないように支援するには、縦割りでは難しく、意味ある計画にするには、庁内の体制が大切と考える。

(事務局)

令和4年にこども施策に係る部局を教育委員会部局に一本化するなどしている。連絡調整を密にしていきたいと考えている。並行して検討している教育基本振興計画等を一体的に運用することを検討している。

(委員)

若者支援部局のようなものができるか？

(事務局)

未定である。

(委員)

今の話はいかに評価指標を適正化するかということにつながる。特に若者の支援を入れてはどうか。

(事務局)

全体的な基本施策のなかでの評価指標や評価方法を検討する。

(委員)

今回の計画は全庁的に関わることになるので、指標を自分事化して取り組んで貰いたい。

(委員)

教育基本振興基本計画はどのように策定しているのか。

(事務局)

学校教育課を中心に作成を進めている。子ども家庭支援課と連携している。

(委員)

こども計画検討会議では協議しないのか。

(事務局)

教育振興基本計画の検討委員会に専門委員を入れて協議しているため、こども計画検討会議では協議しない。

(委員)

第4期地域福祉計画に、重点事業として「子どもを育むまちづくり」が位置づけられている。相談体制、世代間交流等を進めるとされている。

(委員)

多くの計画が存在しているが、それぞれが考えるのではなく、あるものは上手に活用しあえばよいと考える。目的の達成が重要である。

#### (4) その他

特になし

#### 6 その他

事務局より、子ども若者意見ひろばについて説明  
次回は、9月下旬を予定

#### 7 閉会

副会長より閉会の宣言をいただいた。